

NIE グループ研究会

グループ員：門間 祐二	(池尻小学校)	岡本 光子	(笹原中学校)
津田 康子	(南小学校)	大地 健文	(南小学校)
福本 拓耶	(緑丘小学校)	常見 雅代	(鴻池小学校)
武市 愛	(鴻池小学校)	渡邊 賢一郎	(鴻池小学校)
廣 一登	(松崎中学校)	南部 久美江	(笹原中学校)
山岡 永美	(笹原中学校)	有村 理	(笹原中学校)
武田 祐季	(笹原中学校)		

担当指導主事：水津 和雅

キーワード：NIE 指導力向上 授業改善 言語活動

1 研究テーマ

「NIE を通した授業改善」

2 研究内容

(1) 研究の概要

本研究会はNIEの推進をめざして(財)日本新聞協会NIEアドバイザーと兵庫県NIE推進協議会特任アドバイザーであるメンバー、実践経験があるものこれから実践を始めようとするメンバー合計13名で研究を行った。実施期間は10月から1月まで計4回実施した。NIEを通して、児童や生徒が授業の中で主体的に学習に取り組み、言語活動がより一層充実していくことができればよいと考えている。メンバーの中でも、NIEの良さはわかっているが、どのように進めればよいのか、どうすれば子どもたちの好奇心、知識欲などをさらに高めることができるのかと模索しているため、今年度はアドバイザーの助言をもとにワークシート作りを中心に実践した。校種を越え、熱心に事例研究を行った。

(2) 実践事例

- ① 小学校 総合的な学習の時間 第6学年 単元名「朝ごはんを、食べていますか」ワークシート作り
 - ア 使用記事
2012年11月22日 神戸新聞「随想」より
 - イ ねらい
「朝ごはんの大切さを学ぼう」
 - ウ 実践例
 - (ア) 2つのグループに分かれ、個人で「随想」を読む。(1グループ4名)
 - (イ) 記者の意図を読み取る。対象学年を決める。
 - (ウ) 個人でワークの発問を考える。
 - (エ) グループで交流する。
 - (オ) 全体でワークシートを紹介し、評価し合う。
- ② 小学校 社会 第5学年 単元名「酪農家の思いから食生活を考えよう」実践報告
 - ア 使用記事
全国農業協同組合 新聞広告
 - イ ねらい
「酪農家の苦勞や願いを知ろう」

ウ 実践例

- (ア) 広告を見て気づいたことを発表する。
- (イ) 牛乳自給率が 100%の理由を考える。
- (ウ) 値上がりの理由を考える。
- (エ) グループで交流して、発表する。
- (オ) 酪農家の努力や苦勞を学び、感想をまとめる。

③ 中学校 社会 第3学年 「夫婦の姓 子どもたちは」 ニュースウォッチング

ア 使用記事

2015年12月20日 朝日新聞

イ ねらい

「姓に対する自分の意見を発表しよう」

ウ 実践例

- (ア) それぞれの立場の意見記事を読む。
- (イ) 自分の考えをもつ。
- (ウ) グループで自分の意見を発表し、他のメンバーの意見も聞く。
- (エ) 全体で発表する。姓についてどう考えるか交流する。

④ 中学校 国語 第3学年 「視点で変わる物の見方」 実践報告

ア 使用記事

2015年12月18日 神戸・毎日・朝日新聞 「澤選手引退」より

イ ねらい

「記事から記者の思いを読み取ろう」

ウ 実践例

- (ア) 桃太郎新聞・鬼ヶ島新聞を読み、「見出し」の違いから、視点が違えば全く意味が変わることを知る。
- (イ) 3社の「澤選手引退」報道の記事を読む。
- (ウ) 3社の記事の感想を書く。
- (エ) 記事には記者の思いがあり、写真からも記者の意図が伝わることを知る。

3 成果と課題

(1) 成果

- ① ワークをすることで、1つの教材からいくつかのパターンの授業を考えることができた。校種がちがう先生方と交流することで視野が広がった。
- ② 実践報告を聞くことで、新聞はあくまでも教材の1つであり、子どもたちの興味関心を集める有効な手立てであるということを改めて理解するとともに、言語活動の充実に貢献することとなった。
- ③ 小学校、中学校それぞれの取り組み方や実践報告を聞くことができ、参加者が自分の授業に役立てることができた。
- ④ 幼いうちは、(新聞に対して)ハードルが低く、写真や大見出しを活用すれば良いということがわかった。
- ⑤ いろいろな先生のNIE実践や精選した記事を共有でき、アイデアの幅が広がった。

(2) 課題

- ① 様々な実践を情報共有できるため、小中各校1名ぐらいの参加でグループ研究を行いたい。
- ② グループで協議する際、小・中学校の教員の担当学年に幅があり、設問を考えることが難しかったため、グループ編成を検討する必要がある。